

平成24年度定時総会・懇親会の感想 総務部 山縣義昭

総務部では4月13日に定時総会・懇親会を行いました。定時総会は例年通りつつがなく進行し、平成23年度決算と平成24年度予算が承認され、茂山会長以下、新役員の体制がスタートしました。

懇親会では久保田市長をはじめとする多くの名士の方々をご来賓としてお迎えし、盛大に開催させて頂きました。

毎年恒例のアトラクションは「経営者格付けチェック」と題してテレビ番組「芸能人格付けチェック」のWAKAKEI版を行いました。

日頃、夜の街で一流の食材を口にしている一流経営者ばかりを選りすぐった精鋭の塊であるWAKAKEIですから、当然全問正解すると思いきや、ほとんどの問題で意見が2分され、それぞれ「いかにも」という蓋書を披露して頂き、見事に答えを外して頂くなど、大変盛り上がりしました。

正解者への景品は被災された東北地方の名産品を用意しました。少しでも被災地の方々に想いを馳せ、景気回復に貢献出来れば良いと思います。

最後に全員で万歳三唱し、今年のWAKAKEIがスタートしました。

今年もどんな事が巻き起こるか楽しみです。

24年度一泊研修感想 教育部 末永成一

今年の一泊研修は、大人の修学旅行～絆～というタイトルで呼びかけのもとホテル船で町おこしの、下関市豊田町にて開催されました。

一泊研修は、日頃の例会と違って一泊することにより、食事・入浴・懇親会・例会とあらゆることを同じ空間に共有しながら体験でき、お互いの「絆」を深めることができるどころに大変魅力があります。経営者として多忙を極める皆さんですが、仲間との楽しい時間を共有したい思いで多数の方に参加していただくことができました。

また、大方の予想の天気予報を覆し無事に天候も回復、ホテル船にて多くのホテルたちに迎えられ幻想的な光景の中を、しばし自然と触れ合い楽しむことができました。

翌日の、グループミーティングでは、一泊研修での、気づき・学び・改善点などを話し合い、さすが異業種の会だけあって様々な視点からの意見が数多く出され、異業種だからこそ学びあえる長所が大変生かされていました。今後も、このような活気ある一泊研修を通して「絆」を強く深めてゆきたいものです。

お祭り事業出店を終えて 企画部 波多野 秀紀

この度、若経企画部の毎年の恒例事業である新川市祭り・フジサマーフェスティバル・楠夏祭りの3つのお祭り事業を終えました。

自分の担当は主に申請関係で「出店申込・臨時食品営業届許可証等」の申請を行いました。

新川市祭りは宇部商工会議所の社員と相談しながら書類作成だったので、円滑に作成することができたのですが、フジサマーフェスティバルに関しては、イベント会社が広島なのですべてが電話・FAX連絡でのやりとりで、なかなか思うように連絡がつかなかったり、不明点があったりと少し四苦八苦しながらの書類作成でした。

この3つのお祭り事業は私自身若経に入会をして初めて体験をすることだったので、もちろん不安もありましたが、祭り当日はどのような雰囲気で行うのか正直楽しみでもありました。実際3つの祭りを体験してみても思った事は担当している企画部だけが頑張っているのではなく、若経の会員全員が結束し、力を合わせてひとつの活動している姿をみたときはすごく感心致しました。自分もまだまだ若経の力になれてはいませんが、徐々に経験を積み重ねて大きな力になれるよう日々努力していきたいと思っております。

お祭り事業に携わった方々本当にありがとうございました。

入会半年を振り返って 文化部 原田武之

平成24年2月の入会から6カ月が経ち、と書いたところで「まだ半年しか経っていないのか?!」とびっくりしました。感覚的にはもう1年くらいが過ぎたように思います。それだけ若き経営者の会に入ってから活動は内容の濃いものだったということでしょうか。

私は仕事に不可欠な会以外に入会するのは初めてで、正直なところヤル気の反面、多少の不安もありました。しかし、例会、部会、その他多くのイベントに参加させていただく中で、「企画」「調査」「会計」「運営」を自分たちで作上げていくことの大変さと面白さに多く気が付きました。また、文化部内での交流、例会での体験、各イベントでの親睦は、不安を打ち消すどころか、「もっと広い視点で自分の位置を見る」という貴重な経験まで頂くことができました。

「若経5つの信条」も入会前にはぼんやりとした文語だったのですが、今では実体験として理解することができます。若経の活動はいつも刺激的ですし、会員の方たちとの交流は「一業種一社」ということもあり、目から鱗の新鮮な話題ばかりです。そんな若き経営者の会を40年近くの間熟成させてこられた先達に感謝です。また、これから現会員の皆様と一緒に会の運営を通して様々な体験や発想、高いモチベーションや新しい知識を「熟れた果実をもぎとる」感覚でたくさん体内に取り入れたいと思っております。

若輩者ではありますが、面倒見の良い諸先輩方にいろいろと教えていただきながら、若き経営者の会で得たモノを自分はもちろん、仕事や家族にもどんどん還元していきたいと思っております。

今後の文化部の活動は、12月の大イベント「クリスマス会」が控えております。思う存分楽しみながら貴重な経験を「口いっぱい頬張らせていただきたい」と思います。

5月潮干狩り家族会 文化部 岩本 貴志

私が思うに、子供よりむしろ親のほうが童心に戻り夢中になった方も多かった事業だったのではないのでしょうか。

潮の引きが遅く時間を持て余すという想定外の出来事がありましたが、その間に交流をより深めることができ、子供達も海の満ち引きを目の当たりにし、良い勉強になりました。

帰宅してからは、貝の砂はきで玄関を水浸しにしまったり、子供の「ずっと飼いたい!」発言で、数日観察させられましたが、その後美味しくいただきました。

親子共々、思い出に残る行事になりました。お世話になりました。

国際交流事業 企画部 木田英二

今年の国際交流事業は十一月二三日に多田 一馬氏とサポート四名を迎えての見島固有の風習、伝統工芸鬼ようずの凧作り凧揚げ大会を公益財団法人国際交流協会の補助事業を行いました。留学生三十名、会員十九名参加しました。常盤工業会で色を塗り骨組みの向き接着剤など講師達のアドバイスを受けながら苦戦して凧作りをしていました。

昼食は講師を含め留学生との懇談会が出来たのではないかと思います。昼食終了後、工学部グラウンドで凧揚げです。会員と一緒に凧揚げを楽しんでました。解散後もグラウンドに残り凧揚げをしてる人、家族で参加してるは写真撮影してる留学生もいて、日本の伝統行事を体験してもらい、日本での楽しい思い出が出来たのではないかと思います。